

ポートフォリオ評価のあり方を考える - ポートフォリオに対する JF 講座受講者、担当講師の認識を中心に -

丸谷 しのぶ

クアラルンプール日本文化センター

本報告では、2014 年度 4 月期開講の「入門 (A1)」「初級 1 (A2)」「初級 2 (A2)」3 コース・パート 1 (中間試験までの期間) の事例を取り上げる。基本情報は以下の通りである。

レベル	A1		A2	
実施コース名	JFKL 日本語講座 2014 年度前期 入門		JFKL 日本語講座 2014 年度前期 初級 1	JFKL 日本語講座 2014 年度前期 初級 2
実施日時または期間	2014 年 4 月～6 月中旬 (2014 年度前期パート 1)			
授業時間	120 分@ 1 回、週 2 回×10 週=20 回			
授業担当講師	報告者以外の教師 3 名			
1 クラスの学習者数	18 人	19 人	22 人	
学習者の属性	性別：男性 20 人 女性 39 人 年齢：10代 3人、20代 32人、30代 18人、40代 4人、 50代 1人、(不明 1人) 職業：高校生 2人、大学生 2人、会社員 43人、その他 9人 (不明 3人)			
使用教材	『まるごと 入門』（「かつどう」「りかい」） 1～9 課	『まるごと 初級 1』（「かつどう」「りかい」） 1～9 課	『まるごと 初級 2』（「かつどう」「りかい」） 1～9 課	

1. はじめに

国際交流基金クアラルンプール日本文化センター（以下、JFKL）では、2011 年 10 月に JF 日本語教育スタンダード準拠日本語講座（以下、JF 講座）A1 コースを開講した。そこから、ポートフォリオ（以下、PF）及びポートフォリオ評価（以下、PF 評価）の導入を進め、2012 年度からは【表 1】のように全コースで PF 評価を行うようになった⁽¹⁾。導入当初から PF は、出席率、試験（筆記、口頭）と共に、修了証授与要件の一つと位置づけられてきたが、受講者、JF 講座担当講師からは、PF になじみが薄いこともあり、その意義や評価のあり方を巡って様々な問題提起があった。

【表 1】 PF、PF 評価の導入時期

段階	時期	コース	修了証授与要件
〔試行段階〕	2011 年 10 月～2012 年 3 月	A1 コース*	出席率 試験（筆記、口頭） ポートフォリオ
〔第 1 段階〕	2012 年 4 月～2014 年 3 月	全コース (A1～B2)	
〔第 2 段階〕	2014 年 4 月～現在(進行中)	全コース (A1～B2)	

*コースブック『まるごと』使用

本報告では、まず、第 1 段階（2012 年度、2013 年度）の PF 評価の概要を紹介し、JF 講座の受講者、

担当講師の PF 評価への疑問から見えてきた問題点をまとめ、その問題点に取り組む中で得た「3つの共通認識」について述べる。次に、その「3つの共通認識」を踏まえて見直した第2段階（2014年度～現在）の PF、PF 評価の概要を述べ、現在進行中の第2段階の実践から2014年6月末時点で報告可能な3コース、「入門（A1）」「初級1（A2）」「初級2（A2）」のパート1（中間試験までの期間）の事例を対象に、PF と PF 評価のあり方について考察する。

2. 第1段階(2012年度、2013年度)の実践について

2.1 概要

第1段階の実践では、何を記録し保管すればよいのか受講者が戸惑うことなく PF に取り組めるように、4種類のシートを使用し、希望者にはバインダーを配布した。【表2】は、この4種類のシートをいつ、どのように使うかをまとめたものである。

受講者は、コース開始時のオリエンテーションで PF の役割（自律的学習を進めるためのツール）、PF の作り方、PF 評価のやり方、修了要件について説明を受け、4種類のシートを受け取る。そして、コース期間中に作った PF を中間と期末の2回、いずれも試験の次の授業日に行われる「ふり返しセッション」でふり返し、クラスメイトと話し合いながら気づいたことを「③ふり返しシート」に記入する。教師は、ふり返りが進むよう、受講者の PF やシートの記述を見ながら必要な助言を行う。期末試験後の2回目の「ふり返しセッション」で、受講者は「④最終評価ルーブリック」を使って PF の得点を出し、それと試験（中間、期末）の得点から算出した最終得点と出席率が条件を満たせば、受講者には修了証が授与される。

このように、第1段階の PF は「規定の方式で、決められた内容を保管するもの」であり、PF 評価は「④最終評価ルーブリック」を使って点数化された総括的評価であった。

【表2】 第1段階（2012年度、2013年度）で使用したポートフォリオ用シート

シート	いつ使うか	使い方
①評価シート*	毎回の授業の前後	<ul style="list-style-type: none"> 授業前に課題を確認する。 授業後、日付、自己評価（☆の数で評価する方式）、コメントを記入する。
②記録シート**	活動を行った時	<ul style="list-style-type: none"> 日本語、日本文化に関して自分で任意に行った活動について日付、活動内容、コメントを記入する。 授業に関わる活動でもそれ以外の活動でもよい。 成果物、関連資料と共にバインダーに保管する。
③ふり返しシート →資料1	ふり返しセッションの回 (中間、期末、それぞれの試験の次の授業日)	<ul style="list-style-type: none"> シートの指示に従って自分の PF を見直し、自分の学習をふり返る。クラスメイトとも PF を見せ合い、お互いのふり返しをシェアする。 「④最終評価ルーブリック」の評価観点に関連付けて自分の PF を見ていく。

④最終評価ルーブリック →資料2	2 回目のふり返しセッションの回 (期末試験の次の授業日)	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的学習能力 (学習管理、学習モニター) と文化的気づきを評価観点に PF 評価を行う ・PF に保管したもの (①～③のシート、成果物、関連資料) を最終評価ルーブリックに照らし、受講者自身が該当する段階を選び、各段階に割り振られた点数の合計から PF の得点を算出する。
---------------------	----------------------------------	--

*Can-do チェックシート、日本語チェックシートなど **成果物一覧シート、活動の記録シートなど

2.2. 第1段階のPF評価の成果と問題点

2.2.1 成果

【表3】は、受講者を対象に行った2012年度、2013年度のコース終了時アンケート調査から「PFはどうでしたか」という質問に対する回答をコースごとにまとめたものである。これを見ると、8割以上の受講者が「意味があった」「とても意味があった」とPFに対して肯定的に回答していることが分かる。ただし、レベルが上がると肯定的な回答は減り、否定的な回答が増えている。

【表3】質問「PFはどうでしたか」に対する受講者の回答 (2012年度、2013年度調査)

コース JFSレベル	入門 A1	初級 1 A2	初級 2 A2	初中級 A2/B1	中級 1 B1	中級 2 B1	中上級 B1/B2	上級 1 B2	上級 2 B2	回答数
とても意味があった	27.4%	25.4%	22.9%	45.5%	16.7%	20.0%	7.7%	25.0%	8.3%	72
意味があった	63.2%	66.7%	62.5%	50.0%	66.7%	66.7%	76.9%	50.0%	16.7%	177
あまり意味がなかった	9.5%	7.9%	14.6%	4.6%	8.3%	13.3%	15.4%	25.0%	50.0%	35
意味がなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	4
回答数	95	63	48	22	12	15	13	8	12	288

【表4】は、アンケートに記された受講者のコメントから、PFに対する肯定的なコメントを集め、どのような観点から書かれているかを分類し、レベルごとにコメント数をカウントしたものである。コメントの意図が不明な場合はそのコメントを除外し、1つのコメントに複数の観点が含まれる場合は重複してカウントしている。

これを見ると、「1) 授業ファイル」、「2)～5) 自律的学習のツール」、「6) シェアするもの」といった観点から受講者がPFの意義を認めていたことが分かる。また、レベルが上がると、「1) 授業ファイル」として意義があるとのコメントは残るものの、その他の観点に関するコメントは少なくなっていく。

【表 4】 PF に対する受講者の肯定的なコメント (2012 年度、2013 年度調査、コメント総数 49)

コース JFS レベル	入門 A1	初級1 A2	初級2 A2	初中 級 A2/ B1	中級1 B1	中級2 B1	中上 級 B1/ B2	上級1 B2	上級2 B2
コメント数	10	6	3	9	3	9	4	5	0
1) 授業ファイル*として有効	4	1	1	4	1	4	1	2	0
2) 学習や経験を記録できる	3	0	0	2	0	0	1	1	0
3) 学習を自己管理できる	3	0	0	0	1	1	0	0	0
4) 学習がモニター**できる	0	2	0	2	0	3	1	0	0
5) 学習の動機付け***になる	0	1	2	1	0	0	0	0	0
6) 学習、経験がシェアできる	3	1	0	0	0	0	0	0	0

* 「復習、授業資料の保管に役立つ」などのコメント ** 「自分の進歩、弱点分かる」などのコメント

*** 「日本語、日本文化への理解が深められる。」「もっと調べたくなる」などのコメント

2.2.2 問題点

【表 5.1】は、受講者からの否定的なコメントを分類し、レベル別にコメント数をカウントしたものである。カウント方法は【表 4】と同じである。【表 5.2】は、N1) ~N5) の項目にどのような内容のコメントが含まれているかをまとめたものである。

【表 5.1】 PF に対する受講者の否定的な反応 (2012 年度、2013 年度調査、コメント総数 34)

コース JFS レベル	入門 A1	初級 1 A2	初級 2 A2	初中 級 A2/ B1	中級 1 B1	中級 2 B1	中上 級 B1/ B2	上級 1 B2	上級 2 B2
コメント数	7	4	6	4	1	4	2	1	5
N1) 時間がかかり負担が大きい。	2	3	4	2	0	2	0	0	1
N2) 日本語の学習に役立たない。意味がない。	2	0	2	0	0	0	1	0	2
N3) 学習スタイルに合わない。	0	1	1	2	1	0	0	0	1
N4) 自己評価やふり返りに対する疑問	1	2	0	0	0	2	0	0	0
N5) 評価観点に対する疑問	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【表 5.2】 否定的なコメントの内容

項目	コメント内容
N1) 時間がかかり負担が大きい。	・時間がない。(入門・A1~初中級、中級2、上級2) ・記入するシートを減らしてほしい。(入門・A1) ・授業外に自分で活動する (e.g.文化体験) のが負担だ。(初級1・A2)
N2) 日本語の学習に役に立たない、意味がない。	・役に立たない。PF を使わない。(入門・A1、上級・B2) ・文化体験より日本語に集中した方がよい。(入門・A1) ・ファイルするだけでは意味がない。(中上級・B1/B2)
N3) 学習スタイルに合わない。	・シートの使い方、資料のまとめ方が分からない。(初級1・A2、初級2・A2) ・自分の勉強方法と違う。(初中級・A2/B1、中級1・B1、上級2・B2)

N4) 自己評価やふり返りに対する疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に自己評価していない。(入門・A1) ・学生が自己評価するのは変だ。(中級2・B1) ・「活動の記録」「ふり返しシート」は意味がない。(中級2・B1)
N5) 評価観点への疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習管理」を評価する必要はない。(上級2・B2)

【表 5.3】は JF 講座担当講師の PF、PF 評価に対する疑問の声をまとめたものである⁽²⁾。

【表 5.3】PF に対する講座担当講師からの疑問

項目	コメント内容
N6) 自己評価の真正性への疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・評価、コメントがいつも同じ受講者がいる。根拠のない、印象による自己評価になっているのではないかと。 ・受講者の自己評価の方が講師の評価より低く、修了証授与要件を満たさないケースが続出する。
N7) 最終評価ルーブリックへの疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・言語的・文化的な気づきの点数化には違和感がある。
N8) PF の意義、有用性への疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学習や習得に本当に役に立つのか。「授業資料の保管」ファイルになっているのではないかと。 ・PF の役割は「ふり返りのツール」というが、PF がなくてもふり返ることはできるのではないかと。
N9) ファシリテーションの方法への疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者に PF の意義や有用性をうまく説明できない。 ・「ふり返しセッション」で、受講者にどうふり返りを促せばよいか、受講者から出てきた事柄をどう扱えばよいか、わからない。

【表 5.1】、【表 5.3】の項目は、以下の【表 6】の 4 つの問題点にまとめることができる。

【表 6】第 1 段階の PF、PF 評価の 4 つの問題点

項目	問題点
N1) N3)	問題点① : PF の形式と内容 (作り方) について PF の形式と内容を定めることは必要か。
N4) N6)	問題点② : 自己評価について ふり返しによる自己評価は、PF 評価として妥当な方法なのか。
N5) N7)	問題点③ : 「最終評価ルーブリック」について 「最終評価ルーブリック」の評価観点 (自律的学習能力と文化的気づき)、評価方式 (点数化による総括的評価) は妥当なのか。
N2) N8) N9)	問題点④ : PF の有用性、活用方法について PF は日本語・日本文化の学習・ふり返しに本当に有用か。どのように活用すれば、有用なものとなるのか。

2.3 PF、PF 評価の見直しに向けて-「3つの共通認識」

この「4つの問題点」への対応を考える中で気づいたのは、PF と PF 評価が JF 講座に組み込まれている⁽³⁾ 意義、目的について JF 講座担当講師自身がきちんと理解し納得できていない、ということであった。そこで、まずこの点を担当講師間で議論し、PF、PF 評価の意義、目的について【表 7】左欄の共通認識 1～3 を得た。この 3 つの共通認識に立って【表 6】の 4 つの問題点を改めて考えてみると、問題点①、②、③への解答が見えてきた。【表 7】右欄にそのことをまとめた。

【表7】PF、PF 評価の意義、目的に関する共通認識と問題解決の方向

共通認識	問題解決の方向
<p>共通認識1：PFは「自律的」学習のツールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでいう「自律的」の定義：学習者が自分の興味や関心から出発して、自分の目標と方法で「自分らしく」学ぶこと。 つまり、PFの内容や形式も自分に合ったものにする必要がある。 「自分らしく」学ぶ場は、教室の中にも外にもある。 	<p>問題点①→PFの内容・形式は決めなくてもよい。</p>
<p>共通認識2：PF評価には「自己評価」が適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分らしく」学んだかどうかを知るためには、自分自身を内省することが必要であるから、「自己評価」が適している。 ここでいう「自己評価」の定義：自分のやったことをふり返り、自分の状況を認識し、次の目標やより良い方法を探すのに役立つ情報を得ること、つまり「セルフ・アセスメント」という意味である。 そうした情報を得ることが重要であるから、特定の評価観点で点数を出す必要はない。 	<p>問題点②、③→PF評価は、自己評価が妥当である。しかし、「最終評価ルーブリック」で点数化する必要はない。</p>
<p>共通認識3：「自己評価」の質、真正性を高めるため、学習動機を維持するために、誰かとPFを「シェアする」ことが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> シェアするためには、自分のPFをきちんとふり返り、相手に伝えられるよう準備しなければならない。そうすることで、PFに基づいた根拠のある自己評価、シェアできたという実感に基づいた自己評価になり、自信を持って自己評価ができるようになる。 また、シェアすることはピア評価の機会にもなるため、思い込みや独りよがりではない自己評価につながる。こうしたことによって、自己評価に対する真正性が高まる。 シェアする仲間がいることが学ぶ楽しさにつながり、学習動機を高める。 	<p>問題点②→「シェアする」ことで、自己評価の質、真正性を高めることができる。</p>

問題点①、②、③については、このように解決の方向が見えてきたが、「問題点④：PFの有用性、活用方法」については、まだそれが見えてこなかった。問題点④は、PFとPF評価がコースデザインとして組み込まれたJF講座のあり方に深くかかわるものであり、どのように取り組めばいいか、簡単に答えが出るような問題ではないと思われた。そこで、問題点④については、第2段階の実践を進めながら解決の方向を探っていくことにした。

3. 第2段階（2014年度～現在）の実践について

3.1 概要

【表8】は、第2段階のPF、PF評価が第1段階とどう変わったか、その変更点をまとめたものである。大きな変更点は、1) PFの形式、内容についての指定をやめ、受講者に任せるようになったこと、2) 最終評価ルーブリックによるPF評価をやめ、代わりに「自己評価レポート」（→資料3）によるPF評価に変更したことである。こうした変更を行った結果、修了証授与要件（【表8】最下段）にも変更が生じた。

【表8】第2段階のPF、PF評価で変更した点

	第1段階（2012年度、2013年度）	第2段階（2014年度から）
形式	既定のシートに決められた方法で記入し バインダーに保存。	指定なし (各自、自由な形式で)
内容	(既定のシートの内容) 【表2】に同じ	既定のシートなし ・教室内外の活動の記録（日付、活動内容、コメント）を好きなスタイルで作る。

		<ul style="list-style-type: none"> 活動の関連資料を保存する。(成果物や資料は実物を保存するのが望ましいが資料の所在を記録するだけでもよい。)
評価	<ul style="list-style-type: none"> PF をふり返り「最終評価ルーブリック」を使って点数化。 	<ul style="list-style-type: none"> PF 評価：受講者が自分自身の PF をふり返って「自己評価」し、「自己評価レポート」を作成、提出する。
評価の時期	<ul style="list-style-type: none"> 中間試験と修了試験の後 	(変更なし)
修了証授与要件	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 60%以上 PF の得点+試験の得点=60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 60%以上(変更なし) 「自己評価レポート」提出必須 試験の得点=60%以上

【表9】は、第2段階のPFの作り方、PF評価の進め方をまとめたものである。表の右欄には、PFへの取り組みが前節【表7】に挙げた共通認識1～3とどうつながるかを示した。

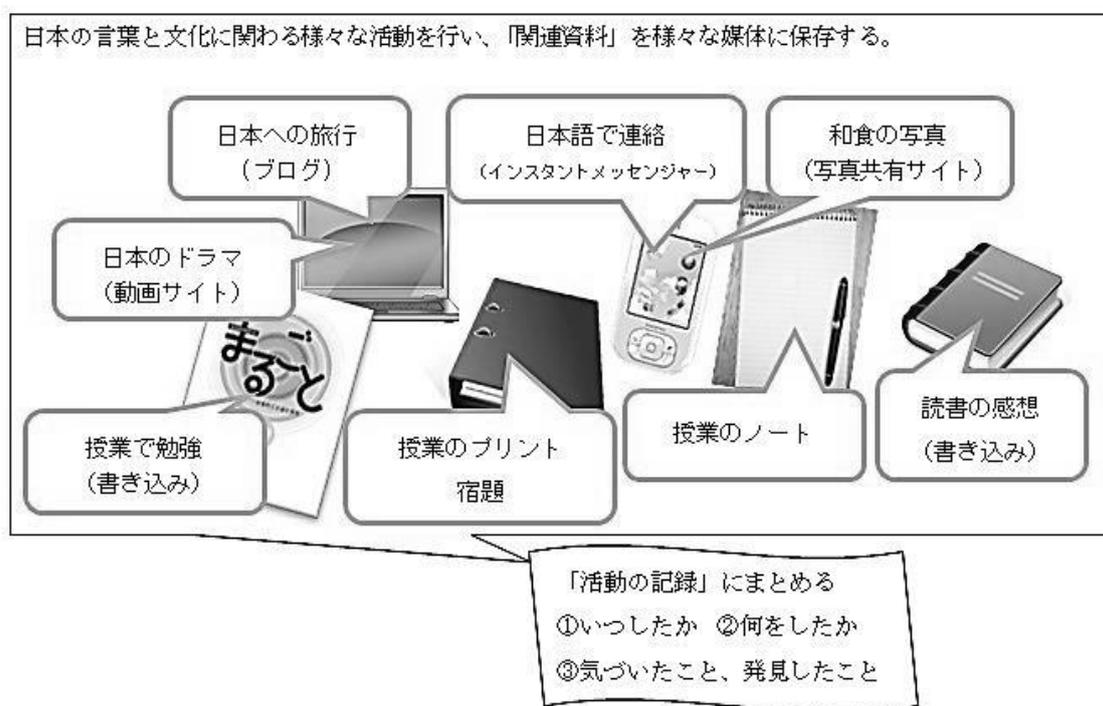
【表9】第2段階（2014年度～現在）のPF作成とPF評価の進め方

	進め方（取り組む時の考え方）	3つの共通認識との関わり
出発点	<ol style="list-style-type: none"> 自分が興味や関心をもつ「日本のことばや文化に関わる活動」を行うことから始める。 <ul style="list-style-type: none"> 教室内外で活動する。(e.g.クラスで勉強する、日本映画を見るなど) 自分の目的、方法で「自分らしく」学ぶことが大事。 PFの形式、内容は自由。 	共通認識1：PFは「自律的」学習のツールである。自分の目的、方法で「自分らしく」学ぶことが重要。
PFを作る	<ol style="list-style-type: none"> 「活動の記録」を作る。 <ul style="list-style-type: none"> 活動したら、活動に適した好きなスタイルで記録する。 ただし、「日付、何をしたか、気づいたこと・発見したこと」を必ず記録する。 活動の「関連資料」を保存する。 <ul style="list-style-type: none"> 記録と共に保存するのが望ましいが、難しい場合は、資料の所在を「活動の記録」に記録する (e.g.ウェブサイトのURL・名前など)。 	共通認識2：PFには「自己評価」が適している。そのため、ふり返れるように記録することが必要。 共通認識3：PFは「シェアする」ことが重要。そのために、資料の保管が必要。
PFを評価する	<ol style="list-style-type: none"> 「ふり返りセッション」（コースの中間と終わりの2回）の前に「自己評価レポート」の作成を始める。 <ul style="list-style-type: none"> PFを見て、「何を」「どのように学んだか」「成果はどうか」「次にやってみたいことは何か」を考え、「自己評価レポート 事前タスク」欄に記入する。 クラスメイトとシェアしたいこと (e.g.自分の学習方法の紹介、文化体験の紹介) をPFから選び、メモや資料を準備する。 「ふり返りセッション」に参加し、自己評価レポートを完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> 事前に準備したことをクラスメイトとシェアする。 全体を通じて気づいたこと、発見したことを記入して「自己評価レポート」を完成させ、提出する。 	共通認識2：PFには「自己評価」(=セルフ・アセスメント)が適している。 共通認識3：PFは「シェアする」ことが重要。「シェアすること」で自己評価への自信が生まれ、自己評価の真正性が高まる。

受講者への説明も【表9】の内容で、コース最初のオリエンテーションと2回の「ふり返りセッション」の前の合計3回、行った。オリエンテーションでPFについて説明する際には、活動も記録も保管も「自分で自由に選んですること」が大切であると説明し、何をどうPFにするかは、自分自身で判断するよう促した。

ただし、初めて取り組む受講者も多いことから、PFのイメージとして次の【図1】を示し、「活動の記

録」 + 「関連資料」 = PF である、との説明を行った。このようにして作った自由な形式・内容の PF を使って「自己評価」 = セルフ・アセスメントを行い、更にクラスでの「ふり返しセッション」に参加した後、「自己評価レポート」を完成させることが、修了証を受け取るためには必須となる。



【図1】第2段階のPFのイメージ 「活動の記録」 + 「関連資料」 = PF

3.2 実践

本節では、「基本情報」に示した2014年度4月期開講の入門(A1)、初級1(A2)、初級2(A2)、3コースを対象に、PF、PF評価の実践を報告する。3コースの受講生のPF、PF評価経験歴は【表10】にまとめた通りである。この3コースの受講者には任意でPFの提出を求め、PFの形態と内容を分析した。また、「自己評価レポート」の記述内容と「ふり返しセッション」の観察⁽⁴⁾から、どのようにPF評価が行われたかを分析した。

【表10】PF、PF評価の経験者

クラス人数	入門 (18名)	初級1 (19名)	初級2 (22名)
第1、第2両段階の経験者	0名	14名	17名
第2段階のみの経験者	18名	5名	5名
提出されたPF数	13	11	21

3.2.1 どのようなPFができたか(1)－ PFの形態と取り組み方

受講者が作ったPFは、「バインダーに保管する」形態のものが一番多かった。ウェブ上の写真、画像などの情報も、プリントアウトしてバインダーに綴じている受講者が多かった。これは、第1段階を経験した受講者が多くいたため、その方法がわかりやすかったという事情が考えられる。そうした資料を

自分で決めたルールに従って整理してファイルしている受講者が多かったが、とりあえず入れておいただけという状態の者もいた。第1段階の方式では、見せることを意識して編集し、ファイリングにも工夫を凝らした「作品」としてのPFがあったが、第2段階ではそうしたケースはほとんど見られず、資料の保管と記録ができるように、あまり労力をかけずに自分なりの方法で取り組んだ、といった印象であった。受講者のPFへの取り組みについて、コース担当講師からは次のようなコメントがあった。

授業期間中、クラスでPFを話題にする機会はほとんどなく、受講者のPFへの取り組みもあまり進んでいない様子だった。ふり返りセッションが近づき、「PFはどうか、活動の記録は進んでいるか」と注意を促したところ、それから慌てて授業でもらったプリントをファイルしたり整理したりした者が多かった。

こうした取り組み状況であったことは、コース終了時アンケートの次のようなコメントからもうかがわれる。

- Too rush, cannot understand what shall I do, What shall I prepare... (初級1)
- Because I don't really have time to make it but hopefully I will do more next class. (入門)

これまでになかったPFの形態として、次のようなケースが1件ずつあった。

ケース1

情報端末(タブレット、パソコン)に保管(入門・第2段階のみの経験者)

情報端末を利用して自分がやった「活動の記録」と「関連資料」を保管し、PFとしている。

「活動の記録」には、出張や家族旅行で行った日本のこと、授業やクラスメイトのことなど、自分が日本のことば・文化とどのように関わったかを英語でまとめている。「関連資料」はパソコンやウェブ上に保存し、シェアする時はパソコンから資料にアクセスして、見せる。授業のプリントなどは、これとは別に保管。

ケース2

クラスメイトと共同で取り組んだ「プロジェクト・ポートフォリオ」(入門・第2段階のみの経験者)

クラスメイト3人でいっしょに行った活動の資料(写真データ)をプレゼンテーション用ソフトを利用して保管し、「活動の記録」は各自が紙に記録している。活動のテーマは「クアラルンプールでの日本料理体験」で、写真ドキュメンタリー風のスライドに店員とのやりとり、メニュー、店内や料理の説明、料理を味わったコメントなどが入門コースで学んだ日本語を使って書きこまれている。3で行った「ミニ・プロジェクト」の記録であり、日本語学習の成果物になっている。3人とも授業のプリントなどは、これとは別に保管。

ケース3

写真アルバムアプリを利用しウェブ上に保管(初級1・第1、第2両段階の経験者)

PFとして残したいものを全て写真に撮り、写真アルバムアプリに日付、コメント(英語と日本語)を付けて「活動の記録」とし、ウェブ上に保管している。紙に書いたりファイルに綴じたりするス

タイトルが苦痛だったというこの受講者は、自分の好きなスタイルで取り組めて良かった、と言う（アンケート・コメントより）。クラスメイトとシェアする時は、アプリを開いて見せる。授業のプリントなどはこれとは別に保管。



(写真はスマートフォン画面を撮影したもの)

3.2.2 どのようなPFができたか(2) - PFの内容

次に、受講者のPFの内容を見ていきたい。PFの内容は次の4つに分類される。

【表11】 PFの内容

内容	例
1) 授業の資料	プリント、ワークシート、宿題シート、作文シートなど授業で使ったり配られたりしたもの
2) 学習ツール	ノート、語彙リスト、漢字リスト、参考書のコピーなど受講者が自分でまとめたもの
3) 自分で行った日本の言葉と文化に関する活動の資料	活動時の写真、ウェブサイトからの画像、チラシ、製品のパッケージなど
4) 活動の記録	いつ、何をしたか、気づいたことや発見したことなどのコメント

【表12】は、PFの内容をコースごとにまとめたものである。

【表12】 ポートフォリオの内容 (%は各提出物の提出者数をPF提出者数で割ったもの)

コース	入門 (18名)		初級1 (19名)		初級2 (22名)	
	提出人数		提出人数		提出人数	
	13名		11名		21名	
1) 授業の資料 (授業で使用されたもの)	7	53.8%	9	81.8%	21	100.0%
2) 学習ツール (受講者がまとめたもの)	3	23.1%	5	45.5%	7	33.3%
3) 自分で行った活動の関連資料	8	61.5%	5	45.5%	17	81.0%
4) 活動の記録	5	38.5%	7	63.6%	12	57.1%

1) 授業の資料

【表 12】を見ると、「授業の資料」を保存しておく「授業ファイル」として PF を活用している学習者が多いことがわかる。授業の資料は紙で配布されるため、それをバインダーに保管していくのは自然な形であり、先述したバインダー形式の PF が多いことにもつながる。報告者の観察でも、バインダー形式の場合、1つの PF に占める授業の資料の割合が高いことが確認できた⁽⁵⁾。

2) 学習ツール

第2段階の PF では、「2) 学習ツール」として自分が使っているものを保存する学習者が少数ではあるが、出て来た。ここでいう「学習ツール」とは、自分の学習に必要な情報を自分で編集し、必要な時に参照できるよう保存してあるものを指している。例えば、かなを覚えるために自分で作った50音表、テキストの文型のみをまとめたノート、「まるごとのことば」サイト⁽⁶⁾から必要な語彙をダウンロードしたもの、テキストの漢字語彙から作った漢字カードなどである。【表 12】にある通り、入門では3名(23.1%)、初級1では5名(45.5%)、初級2では7名(33.3%)がこうした「学習ツール」を PF に入れている。

第1段階の PF では、保存するよう指定されていなかったこともあり、仮に「学習ツール」を使っていたとしてもそれを PF と認識する受講者は見られなかった。しかし、第2段階の PF では、受講者が PF の内容を自由に選べるようになったため、自分の学習に役立つ「学習ツール」を PF に保管するのが自然な流れであったのだろう。実は「1) 授業の資料」を保管する理由も学習に役に立つとの認識からだと考えると、多くの受講者が「学習に役立つ資料やツールを保管するもの=PF」との認識を持っていると見ることができる。

これまで PF は、「自律的学習を進めるツール」として学習プロセスや成果を保存し振り返るものとされ、本講座でも振り返りに使う「内省のツール」という観点から導入してきた。しかし、学習者の立場に立てば、実用的な「学習に役立つ資料やツール」こそが「自律的学習を進めるもの」と感じられるのではないだろうか。「内省のツール」として PF をどう活用するかにはばかりこだわるのではなく、学習に役立つ「実用のツール」としての PF のあり方にも目を向けることは、学習者のための PF とは何かを考える大きなポイントになる。

3) 自分で行った活動の関連記録 4) 活動の記録

「3) 自分で行った活動の関連資料」、「4) 活動の記録」を PF の内容としている学習者の割合を見ても、授業ファイルとしてだけでなく、自分の言語的・文化的活動の記録として PF に取り組んでみようという受講者が少なからずいたことがうかがえる。

初級2の PF の内容では、「3) 自分で行った活動の関連資料」が81.0%、「4) 活動の記録」がおおよそ57%となっている。初級2の受講者の多くは、第1段階の方式で PF に取り組んだ経験があり、自分の活動を PF に記録・保存することに慣れている者が多い。また、初級2になると受講者の日本語学習期間は1年を超えており、日本語や日本文化に触れる機会を自分で見つけて経験することも増えるのだろう。そうしたことが、「3) 自分で行った活動の関連資料」、「4) 活動の記録」が PF の内容として多くなっ

ていることにつながっていると考えられる。

ただし、第2段階で初めて PF に取り組んだ入門コースでも、「3) 自分で行った活動の関連資料」を保管するものとして PF を活用した受講者が6割以上いることは興味深い。日本のことばや文化に興味を持つ学習者は、周りにある日本語や日本文化のリソースを見つけ、自らそれにアクセスすることができる。JF 講座受講者の生活圏であるクアラルンプールでは、身の回りに日本の情報や製品が溢れており、それを見聞きするだけでなく体験できる機会にも恵まれている。その気になれば授業以外にも日本のことばや文化に触れ、自分の興味を呼び起こし関心を満たしてくれるものが見つけられる環境である。「自分で行った活動を記録する」という PF への取り組みは、受講者にそうした環境を学習リソースとして活用することを促す契機となる可能性がある。

3.2.3 PF 評価はどのように行われたか

【表 13】は「ふり返しセッション」後に作成・提出された「自己評価レポート」の内容を分類したものである。表の1)～3)は、何をふり返ったか、というふり返りの対象に関する項目、4)～7)は、学習のメタ認知（目的、学習のモニター、学習計画）に関する項目、8)～9)はクラスメイトとの対話による気づきに関する項目である。

【表 13】 自己評価レポートの内容 (%はその内容の記述数を提出数で割ったもの)

コース	入門 (18名)		初級1 (19名)		初級2 (22名)	
	提出数(=ふり返しセッション参加者数)		15		21	
1) 授業をふり返ったの記述	12	75.0%	7	46.7%	12	57.1%
2) 「ふり返しセッション」についての記述	15	93.8%	14	93.3%	19	90.5%
3) ポートフォリオについての明示的な記述	0	0.0%	2	13.3%	2	9.5%
4) 学習目的(日本語を学んで何がしたいか)に関する記述	11	68.8%	12	80.0%	16	76.2%
5) 自分の学習方法に関する記述	14	87.5%	14	93.3%	18	85.7%
6) 成果(できること、できないこと)の記述	13	81.3%	11	73.3%	16	76.2%
7) 次の目的に関する記述	6	37.5%	4	26.7%	4	19.0%
8) クラスメイトから「知識」「情報」を得たとの記述	8	50.0%	8	53.3%	9	42.9%
9) クラスメイトから得た「気づき」に関する記述	9	56.3%	6	40.0%	13	61.9%

【表 13】を見ると、受講者がふり返りの対象として記述した項目は、「2) ふり返しセッション」に関するものが多く、どのコースも9割を上回っている。「ふり返しセッション」は、その時に「自己評価レポート」を完成させなければならないということもあり、その記述が多いのは当然とも言える。

では、「ふり返しセッション」について受講者はどのように感じたのか。「8) クラスメイトから「知識」「情報」を得たとの記述」と「9) クラスメイトから得た「気づき」に関する記述」のいくつかを以下に挙げる。こうした記述から、受講者は、クラスメイトを通じて自分自身を知り、次の目標を見つけ、

学習動機を維持する機会として「ふり返しセッション」をとらえていたことがうかがわれる。

- ・ I was surprised that many of the youngsters learn Japanese from anime or manga. (入門・A1)
- ・ Learnt different study methods, apps and radio station to improve Japanese experience. (入門・A1)
- ・ キンさんの提示がすごっく(原文のママ)啓発する。私もこれから常用漢字表を調べてみる。(初級1・A2)
- ・ みんなの経験を聞いたら、いろいろ日本語を勉強したいという理由がよくわかりました。(初級1・A2)
- ・ Group member talk many topics in Japanese language. All activity related to Japanese language to culture. But my one is bad. Don't have any related document. (初級2・A2)
- ・ I was a little disappointed that I couldn't present without notes though I had prepared beforehand. (初級2・A2)

では、このことをもって、「PFを使ったセルフ・アセスメントとしてのPF評価」が実現できたと考えてよいのだろうか。「自己評価レポート」では、「事前タスク」としてPFをふり返し「目標、動機」「学習方法」「成果」についてまとめることを受講者に課している。【表13】の「4) 学習目的(日本語を学んで何がしたいか)に関する記述」、「5) 自分の学習方法に関する記述」、「6) 成果(できること、できないこと)に関する記述」の割合を見ると、受講者の多くは自分自身の学習に対するメタ認知を得ているように思われるが、こうしたメタ認知は、PFがなくても「自己評価レポート」の項目に沿って、その時の自分の実感や呼び起こした記憶を内省することによって形成することも考えられる。

「ふり返しセッション」と「自己評価レポート」によって受講者が行った「セルフ・アセスメント」は、実はPFがなくてもできるのではないか。ふり返りの対象として、「3) PFについての明示的な記述」が4例に過ぎないこと、「3.2.1 どのようなPFができたか(1) - PFの形態と取り組み方」で述べたPFへの取り組み状況に関する担当講師及び受講者のコメントを考えあわせると、「PFを使ったセルフ・アセスメントとしてのPF評価」が実現できたかどうか、さらに検証していく必要がある。

4. これからの課題

第2段階のPF、PF評価の導入が始まって3か月の現時点では、その成果や課題が十分に見えてきたとは言いがたい。本報告で取り上げたのはいずれもコースブック『まるごと』を使ったA1、A2レベルの中間試験までの限られた事例であり、これ以外のコース、特に上位レベルのコースで受講者がどのようにPFに取り組み、PF評価を行うのかは、今後の観察、分析を待たなければならない。

本報告で取り上げた範囲で、PF、PF評価の今後の課題をまとめると次の通りである。これらの課題は、「2.2 第1段階のPF評価の成果と問題点」で述べた「問題点④：PFの有用性、活用方法」に深くかかわるものである。

- 1) PFは自律的学習を進める「内省のツール」として導入を進めてきた。しかし、PFにはそれだけでは

なく、自立的学習に役立つ「学習ツール」として活用できる可能性がある。これまでは、「学習ツール」という側面から PF、PF 評価のあり方を見ていくことはあまりなかったが、今後はこうした側面からのアプローチも必要ではないか。

- 2) PF 評価として行った「セルフ・アセスメント」は、「ふり返しセッション」と「自己評価レポート」を活用すれば、PF がなくても行うことができそうである。PF（「活動の記録」＋「関連資料」）がなければできない「セルフ・アセスメント」とは何か、更に考えていく必要がある。

新しい方式の PF に取り組む受講者を見てみると、クラスの内外で好きなことを好きな方法で「自分らしく」学ぶこと、クラスメイトという「仲間」と学ぶことが、「課題遂行能力と、異なるものを受け入れる異文化理解能力を高め、相互理解を目指す」という JF 講座のミッションにつながっていく可能性を感じる。受講者が PF に何を残し、どのように活用するのかを引き続き観察しながら、受講者にとって意味がある PF、PF 評価のあり方を考え、JF 講座のミッション実現に向けて取り組んでいきたい。

注記

- (1) PF 評価を導入したコースとその目標レベルは次の通りである。

コース	入門	初級 1	初級 2	初中級	中級 1	中級 2	中上級	上級 1	上級 2
目標レベル	A1	A2	A2	A2/B1	B1	B1	B1/B2	B2	B2

- (2) 講師からの疑問の声は、当時の担当講師による授業報告書などをもとに、報告者がまとめたものである。

- (3) 参考資料では、PF を「『課題遂行能力』と『異文化理解能力』を育成するために学習者一人一人が学習過程を記録し、保存するもの」と定義し、学習者が「日本語の熟達度を自己評価し、自分の言語的・文化的体験を記録」し、「学習過程を記録し、ふり返ることで学習成果の評価のツール」として使える、とある。

- (4) 「ふり返しセッション」の観察は、コース担当講師と報告者が受講者のふり返りの様子をそばで観察し、セッション直後の観察者による話し合いで報告者が要点をメモする、という方法で記録した。

- (5) バインダー式の PF の典型的な構成は「1) 授業の資料」が 15 枚前後、「3) 自分でやった活動の関連資料」が 3～4 枚、「4) 活動の記録」が 1 枚といったところである。

- (6) JF 日本語教育スタンダード準拠コース用コースブック『まるごと 日本のことばの文化』（入門 A1, 初級 1 A2）用のオンライン辞書サイト。<http://words.marugotoweb.jp/>

参考資料

『JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック第 2 版』（2013 年 3 月）

JFKL 日本語講座 総合コース：中級2

名前

ふりかえりシート Self-Reflection Sheet

Pre-Task Portfolio ファイルを見て、書いておいてください。

1. 学習管理 Self-Learning Management

(1) Portfolio ファイルの中を確認しましょう。
 きちんとファイルしてあるので、何を学習したか、よくわかる
 効果的にファイルしてある filed effectively

(2) Can-do チェックシートの2のところ (目標と計画) を見てください。
 ● あなたが、しようと思ったことはなんですか？

● 実際に何をしましたか？

2. 学習モニター Monitoring Learning Process

自分ができるようになったこと、まだ弱いところをメモしてください。

内容	コメント
できるようになったこと	どのように勉強しましたか？
まだ弱いところ	どうすればいいですか？

3. 文化的気づき Cultural Awareness

文化やおたがいの考えについて興味を持ったこと、新しい発見があったことの中から、**1つ**を選んで書いてください。

タスク1 Portfolio ファイルを見せ合いながら、クラスメートと話し合しましょう。

- 自分ができるようになったこと、そのために、**2. 学習モニター Monitoring Learning Process**
- 文化やおたがいの考えについて興味を持ったこと、新しい発見があったこと。
 (3. 文化的気づき Cultural Awareness)

"できた"

タスク2 クラスメートと話し合ったことをふり返って、書いてください。

- 日本語を学習するための新しいアイデアや、自分もしてみようと思ったことがありましたか。
 ある ない
 ↳ どのようなことですか？
- 日本の文化やおたがいの考え方について、クラスメートの話をきいて、おもしろいと思ったことがありますか？
 (3. 文化的気づき Cultural Awareness)
 ある ない
 ↳ どのようなことですか？
- 次にできるようになりたいことは何ですか。そのために何をしますか。
 (1. 学習管理 Self-Learning Management **自分の目標**)

"すばらしい"

最終評価 Final Assessment		初中級		名前		最終評価		先生のサイン	
						%		日付	
評価項目 Criteria	資料 References	がんばって Need Improvement	もう少し Getting there	できえ Well done	すばらしい Excellent				
中間テスト Mid-term test (/30)	● 口頭テスト (/20) ● 筆記テスト (/40)	□ 0-5 □ 0-14	□ 6-10 □ 15-24	□ 11-15 □ 25-34	□ 16-20 □ 35-40				
期末テスト Final test (/30)	● 口頭テスト (/20) ● 筆記テスト (/40)	□ 0-5 □ 0-14	□ 6-10 □ 15-24	□ 11-15 □ 25-34	□ 16-20 □ 35-40				
() /40	学習管理 Self-Learning Management	Portfolio ファイルの管理 自分の目標を持つ ● チェックシート ● 学習の記録 "My Learning Records" ● ふりかえりシート "Reflection sheet"	□ ファイルがめっちゃくちゃなので、何を学習したが、まったくわからない。(2.5点) □ 自分ができるようになりたいことや、したいことが決められない。(2.5点)	□ きちんとファイルしてないので、何を学習したが、よくわかる。(7.5点) □ 自分ができるようになりたいこと、したいことが決められる。また、実行できない。(7.5点)	□ きちんとファイルしてないので、何を学習したが、よくわかる。(7.5点) □ 自分ができるようになりたいこと、したいことが決められる。また、実行できない。(7.5点)	□ 自分ができるようになりたいこと、し □ 自分ができるところ(weaknesses)がわかる。また、学習方法(how to learn)についてクラスメートと話し合い、新しい方法に気づいたアドバイスしたりできる。(10点)	□ 自分ができるようになりたいこと、し □ 自分ができるところ(weaknesses)がわかる。また、学習方法(how to learn)についてクラスメートと話し合い、新しい方法に気づいたアドバイスしたりできる。(10点)		
	学習プロセス Monitoring Learning Process	自分の状態を知る ● チェックシート ● 学習の記録 "My Learning Records" ● ふりかえりシート "Reflection sheet"	□ 自分ができるようになったこと、自分の弱いところ(weaknesses)もよくわからない。(2.5点)	□ 自分ができるようになったこと、自分の弱いところ(weaknesses)がわかる。また、自分がどのように学習したか(how to learn)も、説明できる。(7.5点)	□ 自分ができるようになったこと、自分の弱いところ(weaknesses)がわかる。また、自分がどのように学習したか(how to learn)も、説明できる。(7.5点)	□ 自分ができるようになったこと、自分の弱いところ(weaknesses)がわかる。また、学習方法(how to learn)についてクラスメートと話し合い、新しい方法に気づいたアドバイスしたりできる。(10点)	□ 自分ができるようになったこと、自分の弱いところ(weaknesses)がわかる。また、学習方法(how to learn)についてクラスメートと話し合い、新しい方法に気づいたアドバイスしたりできる。(10点)		
	文化的気づき Cultural Awareness	お互いの理解を深める ● ふりかえりシート "reflection sheet"	□ 文化やお互いの考え方も何も興味がない。また、クラスでも何も発見がない。(2.5点)	□ 文化やお互いの考え方について興味を持った。そして、クラス活動では、新しい発見がいくつかあった。(5点)	□ 文化やお互いの考え方について興味を持ち、クラス活動で新しい発見があった。また、それについてクラスメートと話し合った。(7.5点)	□ 文化やお互いの考え方について興味を持ち、クラス活動で新しい発見があった。また、それについてクラスメートと話し合い、新しい発見がいくつかあった。(7.5点)	□ 文化やお互いの考え方について興味を持ち、クラス活動で新しい発見があった。また、それについてクラスメートと話し合い、新しい発見がいくつかあった。(7.5点)	□ 文化やお互いの考え方について興味を持ち、クラス活動で新しい発見があった。また、それについてクラスメートと話し合い、新しい発見がいくつかあった。(7.5点)	

<p>総合 : _____ コース General : _____ course</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">名前/Name ひらがな 姓 名 日付/Date 2014年 月 日</p> </div> <div style="background-color: #f4a460; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>自己評価レポート・Self-Assessment Report</p> </div> <p>事前タスク/PRE TASK</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポートフォリオを見て、これまでの言語的・文化的体験をふり返りましょう。 Review your Portfolio & reflect your learning experiences of Japanese language and culture. <ol style="list-style-type: none"> 1. わたしの目標、希望 Goals and wishes that I have <p style="margin-top: 20px;">2. 目標達成のためにしたこと、役に立ったこと (関連資料) What I did and what were useful to achieve my goals (related documents)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 成果 (できるようになったこと、まだできないこと) My achievement (What I can do and what I cannot do) 	<p>タスク1 / Task 1 グループディスカッション/Group discussion</p> <ul style="list-style-type: none"> ●準備したものを見せながら、ことばの学習や文化理解について話し合しましょう。 Share what you have prepared and talk with your classmates about language learning and culture experiences. <p>タスク2 まとめ/Conclusion</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体を通して気づいたことをまとめてください。 Write the conclusion of today's session <p style="margin-top: 20px;">●自己評価レポートを担当講師に提出してください。 Submit your Self-Assessment Report to your lecture in charge.</p>
--	---